（様式１）

令和５年度　学校経営計画書及び最終評価報告書

金沢市立工業高等学校
校 長　　西東　直人

１　教育理念

金沢市立工業高等学校は、金沢市及び地域産業の発展に貢献するために、質実剛健にして勤勉進取の気概を備えた有為なる人材を育成する。

２　教育目標

（１）高い教養とすぐれた技能を
（２）責任ある言動と協調の精神を
（３）勤労の喜びと健全な心身を

３　教育方針

（１）「ものづくり」の感性と工業の基礎・基本を身につけた創造性豊かな人材を育成する。
（２）学校行事、生徒会活動、部活動及びボランティア活動等を通じて、多様な他者と協働しながら、持続可能な社会の創り手となる人材を育成する。
（３）社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力及び社会の形成に主体的に参画するための資質・能力を育成する。

４　今年度の重点目標

（１）「率先垂範」（教職員）、「凡事徹底」（生徒）を目指す。
（２）生徒の「自己肯定感」を高めさせる。（目標達成のために必要不可欠）
（３）生徒に考えさせることを習慣化させ、自分の言葉で考えや意見を表現できる生徒の育成を目指す。
（４）「働きたくなる学校」を目指す。（心理的安全性のある職場環境の醸成）
（５）「選ばれる学校」「行きたくなる学校」を目指す。
（６）落ち着いた学校生活にする勘所（時を守る・場を清める・礼を正す）を心得る。
（７）教職員の働き方改革の徹底を図る。

（様式２）

重点目標		具体的取組	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	集計結果	分析（成果と課題）及び改善策など
1	「率先垂範」（教職員）、「凡事徹底」（生徒）を目指す。	① 自学の習慣化と基礎学力の定着を図ることを目的に、自学の時間調査を継続的に実施し、保護者との連携を密にして指導を行う。	【成果指標】 宿題や課題等に取り組む自学時間を毎日１時間以上確保できる生徒の割合を５０％以上にする。	宿題や課題等に取り組む自学(授業以外で取り組む学習)を毎日１時間以上取り組むことができた。 Ａ　１時間以上取り組んだ Ｂ　十分とはいえないが取り組むことができた Ｃ　少し取り組むことができた Ｄ　取り組めなかった	Ｃ・Ｄの割合が５０％以上の場合は方法を再検討する。	Ａ　　９％ Ｂ　３２％ Ｃ　３９％ Ｄ　２０％ （アンケート結果）	Ａ＋Ｂの結果は昨年度とほぼ同程度ではあるが、減少傾向にある。今後は宿題や課題に加え、資格取得などを含め、自学の機会を増やせるような働きかけを行う。また、Teamsを利用した宿題や課題の提示、提出などICTの活用による自学を充実させる取組みを行っていきたい。
		② 傘さし運転ゼロ運動により、雨天時にはカッパを着用して自転車通学をさせ、傘さし運転をさせない。	【成果指標】 傘さし運転およびカッパ未着用者を減少させる。	傘さし運転ゼロ運動により違反者が全校で Ａ　一人もいない Ｂ　５人未満である Ｃ　５人以上である Ｄ　１５人以上である	Ｃ・Ｄの場合は指導方法を再検討する。	Ｃ　６人～１０人未満 ６人	今年度は、カッパの未着用者が年間で６人だけであった。ほとんどの生徒が小雨でもカッパを着用し、ここ数年の先生方の声掛けが実を結んだ結果である。来年度は始業式で注意喚起したり、天気予報を意識させたりするなどして違反者ゼロに近づけていく。
		③ 校内での携帯電話使用をさせない。	【成果指標】 携帯電話使用する生徒を減少させる。	校内での携帯電話使用違反者が、クラス毎の延べ人数（半期） Ａ　　５人未満 Ｂ　　６人～１０人未満 Ｃ　１０人～１５人未満 Ｄ　１５人以上	Ｃ・Ｄの場合はクラス毎に指導する。	Ｂ　６人～１０人未満 ７人	年度初めから、１年生で立て続けにスマートフォンの使用が見られた。個人注意はもちろんであるが、当該クラスでの全体注意喚起とクラス全体で注意し合って防いでいく環境作りを促した。
		④ 遅刻をさせない指導の徹底を図る。	【成果指標】 一日の遅刻者数を減少させる。	一日平均遅刻者数（年間）が Ａ　１人未満 Ｂ　１人～２人未満 Ｃ　２人～３人未満 Ｄ　３人以上	Ｃ・Ｄの場合は指導方法を再検討する。	Ｃ　２人～３人未満 ２．８人	大雪による交通渋滞や通院のあと登校してくる生徒が多かった。早めに行動することはもちろんであるが、特に１年生に対しては悪天候が予想される場合の対応を、担任などを通して早めに情報提供していく必要がある。
		⑤ ゴミの持ち帰り・ゴミの少量化・分別の徹底を図る。	【努力指標】 クラスや各部活動が中心となり学校全体で、ゴミ分別や持ち帰りの意識を高める。	生徒がゴミの持ち帰りや分別を行う事ができたか。 Ａ　ゴミの持ち帰りや分別を行うことができた Ｂ　だいたい行うことができた Ｃ　あまり行わなかった Ｄ　ほとんど行わなかった	Ｃ・Ｄの割合が２０％以上の場合は、取り組み方を再検討する。	Ａ　８４％ Ｂ　１５％ Ｃ　　１％ Ｄ　　０％ （アンケート結果）	良好な結果ではあるが、今後も指導を続けていき、分別だけでなくゴミの少量化やリサイクルの大切さも考えさせていきたい。
		⑥ 実習による事故を起こさない。	【努力指標】 注意喚起、環境改善、ＫＹ教育の徹底により、ゼロ災害を目指す。	事故の発生件数が Ａ　なし Ｂ　１～３件 Ｃ　４～６件 Ｄ　７件以上	Ａでなければ安全教育のあり方を再検討する。	【機　械　科】Ａ 【電　気　科】Ａ 【電子情報科】Ｂ 【建　築　科】Ｂ 【土　木　科】Ｂ	【電子情報科】 １年生のはんだ付け実習において、軽いやけどが２～３件あった。その原因には、作業中の整理整頓も含まれる。安全教育の一環として、ＫＹ予知活動訓練などを取り入れる。工業実習における思考判断表現を育成する。 【建　築　科】 木材加工の実習中に刃物で怪我をしたこと事例が１件あった。作業姿勢への指導や実習にあたっての安全教育を取り入れる。 【土　木　科】 強風で野球の防球ネットが倒れ測量中の生徒にぶつかった。

（様式２）

重点目標		具体的取組		評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	集計結果	分析（成果と課題）及び改善策など
２	生徒の「自己肯定感」を高めさせる。 （目標達成のために必要不可欠）	①	運動部、文化部の加入率を高めるとともに、各種大会等での上位入賞を目指す。	【努力指標】 引き続き、高い部活動加入率の維持を図る。	全学年の部活動加入率が Ａ　９０%以上 Ｂ　８０%～９０%未満 Ｃ　７０～８０%未満 Ｄ　７０%未満	Ｃ以下の場合は次年度の改善策を検討する。	Ａ　９０%以上 ５月現在 運動部　４５０ 文化部　２４１ 合計　６９１（９４%）	部活動加入率は、昨年度とほぼ同じである。運動部ならびに文化部両方で本校の生徒はがんばっている。
				【努力指標】 引き続き、高い１年生年度当初の部活動加入率の維持を図る。	１年生年度当初の部活動加入率が Ａ　９０%以上 Ｂ　８０%～９０%未満 Ｃ　７０～８０%未満 Ｄ　７０%未満	Ｃ以下の場合は次年度の改善策を検討する。	Ａ　９０%以上	今後も全員の入部を促していく。
				【成果指標】 県大会以上の大会で優勝する部活動数の増加を図る。	県大会以上の大会で優勝できた部活動数が Ａ　７部以上 Ｂ　４部～６部 Ｃ　１部～３部 Ｄ　なし	Ｄの場合は対策を考える必要がある。	Ａ　７部以上 県大会優勝 弓道・相撲・新体操・ハンドボール・バドミントン・水球・吹奏楽・マイクロコンピュータ・建築・土木技術など	どの部も、よく努力していた。
				【満足度指標】 生徒が達成感をもって活動している。	生徒の部活動に対する充実感が Ａ　十分満足している Ｂ　ほとんど満足している Ｃ　あまり満足していない Ｄ　満足していない	Ａ・Ｂの割合が７０%未満の場合は、再検討する。	Ａ　５１% Ｂ　３４% Ｃ　１１% Ｄ　４% （アンケート結果）	Ａ・Ｂ合わせて８０%を超えている。コロナによる規制も緩和され、満足のいく活動ができていると考えられる。
		②	応援練習と応援実践を通して、学校の帰属意識や愛校心を醸成させる。	【努力指標】 生徒が自ら考えて応援を指導する。	高校相撲での会場で応援する人数が Ａ　３００人以上 Ｂ　２００人以上 Ｃ　１００人以上 Ｄ　１００人未満	Ｄの場合は、対策を検討する。	Ａ　３００人以上 全校応援を実施 ７００人以上が参加した。	４月中旬より応援団長のリーダーシップのもと、計画的に応援練習が実施され、当日も参加生徒一丸となった応援合戦が繰り広げられた。
				【満足度指標】 応援を通して、愛校心を高めることができた。	応援に参加して Ａ　大変実感できた Ｂ　実感できた Ｃ　あまり実感できなかった Ｄ　全く実感できなかった	Ｃ・Ｄ合わせて３０%以上の場合は取り組みを再検討する。	Ａ　４６% Ｂ　４３% Ｃ　９% Ｄ　２% （アンケート結果）	今年度より、学校応援ポロシャツ及びキャップを着用しての応援となり、より一体感が増した。
		③	金工祭において、生徒会・クラス・文化部がそれぞれ主体となって展示、イベントを実施する。	【満足度指標】 金工祭を盛り上げるために、主体的に取り組んだ。	金工祭での活動に Ａ　主体的に取り組んだ。 Ｂ　少し主体的に取り組めた。 Ｃ　あまり主体的に取り組めなかった。 Ｄ　主体的に取り組めなかった。	Ｃ・Ｄ合わせて３０%以上の場合は取り組みを再検討する。	Ａ　６４% Ｂ　３２% Ｃ　３% Ｄ　１% （アンケート結果）	１日目の１年生企画は、どのクラスも熱のこもったステージ発表であった。２日目の一般開放日は悪天候にもかかわらず千人を超える一般客が来校し、今年度の金工祭も満足できるものになったと思う。
		④	ボランティア活動を推奨する。	【努力指標】 ボランティアの参加者を増やす。	年間を通してボランティア参加者が Ａ　１００人以上 Ｂ　８０～１００人 Ｃ　６０～８０人 Ｄ　６０人未満	Ｃ･Ｄの場合は、取り組み方を検討する。	Ａ　１００人以上	金沢マラソンのボランティア等、積極的に参加してくれる生徒が多い。
		⑤	コロナ感染の影響がなくなり、集会等を行えた時に、校歌斉唱を実施する。	【努力指標】 自発的に大きな声で校歌斉唱する生徒を増やす。	自発的に校歌斉唱できる生徒が Ａ　８０%以上である Ｂ　７０%～７９%である Ｃ　６０%～６９%である Ｄ　６０%未満である	Ｃ･Ｄの場合は、取り組み方を検討する。	Ａ　１７% Ｂ　４４% Ｃ　３３% Ｄ　６% （アンケート結果）	全校での応援練習ができ、高校相撲金沢大会の全校応援でも校歌斉唱ができた。
		⑥	ジュニアマイスターを推奨し、多くの資格取得に挑戦する意識付けの取り組みを推進する。	【成果指標】 資格取得によるジュニアマイスター受賞者の人数を増やす。	３年卒業時のジュニアマイスター受賞者の数が Ａ　８０人以上 Ｂ　６０人以上８０人未満 Ｃ　４０人以上６０人未満 Ｄ　４０人未満	Ｄの場合は、取り組み方を再検討する。	Ｂ　６０人以上８０人未満 ７５人	今年度のジュニアマイスター受賞者数は７５人であった。資格取得の促進に加え、申請前のアナウンスを含めたサポートにより、昨年度の３倍近くの受賞があった。 引き続きサポートを行い、受賞者の増加につながる支援をしていく。
		⑦	就業体験学習に積極的に参加し、進路選択に役立てる。	【満足度指標】 多くのことも学べるように積極的に活動している。	就業体験学習に参加し Ａ　進路意識が大いに高まった Ｂ　進路意識が少し高まった Ｃ　進路意識はかわらなかった Ｄ　進路意識を高めるに至らなかった	Ｃ，Ｄの場合は事後指導をしっかり行い、次年度の事前学習について検討する。	Ａ　７５．０% Ｂ　２１．７% Ｃ　３．３% Ｄ　０．０% （アンケート結果）	本年度も新型コロナウィルス感染症の影響で実施されなかった、または中止となった就業体験学習があった。また、昨今の異常ともいえる暑さの中、受入側の実施態勢や内容に変化がみられる。現状、生徒からは前向きな回答が得られているが、次年度以降も就業体験学習がより良い場となるようにしていきたい。
		⑧	高校生ものづくりコンテスト大会（旋盤、電気工事、電子回路組立、木材加工、測量等）及びそれに準じるコンテストにおいて上位入賞を目指す。	【成果指数】 各種コンテスト大会においての上位進出を目指す。	今年度のコンテスト大会において Ａ　全国大会入賞 Ｂ　北信越大会(ブロック大会入賞) Ｃ　県大会入賞 Ｄ　入賞なし	Ｄの場合は、指導や取り組みの見直しを行う。 Ｂ以上を目指す。	【機　械　科】Ａ 【電　気　科】Ｃ 【電子情報科】Ｃ 【建　築　科】Ｂ 【土　木　科】Ｃ	【機　械　科】 全国ソーラーラジコンカーコンテスト2023 in 白山 ３位 【電　気　科】 高校生ものづくりコンテスト電気工事部門 県大会３位 【電子情報科】 高校生ものづくりコンテスト電子回路組立部門 県大会優勝・３位、北信越大会出場 【建　築　科】 高校生ものづくりコンテスト木材加工部門 北信越大会２位 【土　木　科】 高校生ものづくりコンテスト測量部門 県大会優勝、北信越大会出場

（様式２）

重点目標		具体的取組		評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	集計結果	分析（成果と課題）及び改善策など
3	生徒に考えさせることを習慣化させ、自分の言葉で考えや意見を表現できる生徒の育成を目指す。	①	朝学習、放課後･夏季休業中･定期考査前の補習等の充実を図り、学習習慣の定着を目指す。	【満足度指標】 家庭学習を含め、朝学習や授業以外の補習に積極的に取り組むことができた。	朝学習や補習授業にしっかりと取り組むことができた。 Ａ　十分取り組むことができた Ｂ　十分とはいえないが取り組むことができた Ｃ　少し取り組むことができた Ｄ　全く取り組めなかった	Ｃ・Ｄの割合が ５０％以上の場合は方法を再検討する。	Ａ　３６％ Ｂ　３７％ Ｃ　２１％ Ｄ　６％ （アンケート結果）	Ａ＋Ｂの結果は昨年度と同程度であった。朝学習のホーム担任や教科担任との連携を継続して取り組む。また、引き続きＣやＤの生徒が取組めない原因をホーム担任や教科担任と連携して探り、解決に取組んでいきたい。
		②	習熟度別授業や少人数授業を展開し、学力の伸長を図る。	【満足度指標】 自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考えることで、問題を解決する力を実感できる。	習熟度別授業は自分の学力に合っていると思う生徒の割合が全体の Ａ　６０％以上であった Ｂ　５０％～５９％であった Ｃ　４０％～４９％であった Ｄ　４０％未満であった	Ｃ・Ｄの場合は方法を再検討する。	Ａ　４０％ Ｂ　５２％ Ｃ　７％ Ｄ　１％ （アンケート結果）	Ａ＋Ｂの結果が９２％であり、ほとんどの生徒が自分の学力に合った授業で学習に取り組んでいることがうかがえる。今後も個々の学力に応じた授業形態により学習効果を高めていきたい。
4	「働きたくなる学校」を目指す。（心理的安全性のある職場環境の醸成）	①	いじめの重大事態に早期発見・早期対応に向け気になる情報については速やかに共有し組織的な対応を行う。	【努力指標】　担任や関係職員と情報交換をはかり、未然防止・早期発見に取り組む。	教員は、日常の様子から生徒の発するサインを見逃さないことを意識している。 Ａ　よくはてはまる Ｂ　まあまああてはまる Ｃ　あまりあてはまらない Ｄ　あてはまらない	Ｃ・Ｄの割合が３０％以上の場合は、取り組み方を再検討する。	Ａ　４３％ Ｂ　５７％ Ｃ　０％ Ｄ　０％ （アンケート結果）	いじめアンケートだけでなく、日頃からの面談や教育相談室からの生活アンケートなどにより生徒の実態把握がこまめに行われている。また、教室の整理整頓の状況や時間を守れているかなど小さな変化からさらにコミュニケーションを密にすることで見逃しをしない取り組みを推進していく。
5	「選ばれる学校」「行きたくなる学校」を目指す。	①	クラスに保健室・教育相談室の紹介をする。１年オリエンテーションで具体的に説明する。	【努力指標】 生徒が充実した学校生活を送ることができる。	保健室、教育相談室は体や心の健康について利用や相談が Ａ　できる Ｂ　必要である時にできる Ｃ　あまりできない Ｄ　できない	Ａ・Ｂ合わせて５０％未満の場合は、取り組み方を検討する。	Ａ　３２％ Ｂ　５２％ Ｃ　８％ Ｄ　８％ （アンケート結果）	昨年度Ａ・Ｂ合わせて８３％に対し、今年度も８４％と保健室や相談室を利用しやすくなったと答えた生徒が増え、目標は達成できた。今後はＣ・Ｄの利用できないと答えた生徒に対しても取りこぼしがないよう注意していきたい。
		②	進路指導年間計画に基づき、各学年に応じた進路指導を展開する。特に学年会とは情報を共有し生徒の進路実現を目指す。	【成果指標】 就職決定率	就職決定率が Ａ　９８％以上 Ｂ　９５％以上９８％未満 Ｃ　９０％以上９５％未満 Ｄ　上記以下	Ｃ，Ｄの場合は、取り組み方を再検討する。	Ａ　９８％以上 １００％	ここ数年の傾向だが、求人数は本年度も増加した。「金市工高の卒業生に入社してほしい」という、ありがたい言葉を多数いただいており、卒業生の活躍が求人につながっている。その期待に応えられる人材育成が必要である。
				【成果指標】 進学決定率	進学決定率が Ａ　９８％以上 Ｂ　９５％以上９８％未満 Ｃ　９０％以上９５％未満 Ｄ　上記以下	Ｃ，Ｄの場合は、取り組み方を再検討する。	Ａ　９８％以上 進学決定率 ９６人／９６人 決定率１００％	９６人中、７１人が４年生大学に進学した。内６人が国公立大学に進学することができた。また７１人中３６人が理系大学に進学した。文理半々であることから、理系大学進学者の増加が課題である。
		③	図書委員会活動を活性化し、読書活動を推進する。金沢市立海みらい図書館との連携・協働を図り、ものづくり教育の発信をする。	【成果指数】 一日の平均来館者数	一日当たりの来館人数を平均30人以上を目指す。 Ａ　昨年度、より上回った Ｂ　ほぼ同じであった Ｃ　少し下回った Ｄ　かなり下回った	Ｄの場合は、取り組みの見直しを行う。	Ａ　昨年度、より上回った 来館者８９２５人で開館日数１９０日。１日来館者数平均４７人であった。	今年度の年４回朝読書活動や図書委員の研修や企画、海みらい図書館との連携を行った。特に、朝読書期間中に朝の開館を行ったことにより来館者と貸出冊数が伸びた。１人１台端末導入により貸出冊数減の年もあった。今後も、本との出会いや心の成長、知識・技術の学びなど、生徒が主体的に深い学びができるように取り組んでいきたい。
		④	広報活動の実施を積極的に行う。全教職員との連携を図りながら、学校広報活動の立案と作成などの統括を行い、積極的な広報活動（ＳＮＳやメディアの活用）を図る。	【成果指数】 全投稿のうち、投稿インサイトのリーチしたアカウントがshiko_thをフォローしていない人が５０％でした。	全投稿のリーチしたアカウントのうち、shiko_thをフォローしていない割合が５０％以上を目指す。 Ａ　昨年度、より上回った Ｂ　ほぼ同じであった Ｃ　少し下回った Ｄ　かなり下回った	Ｄの場合は、取り組みの見直しを行う。	Ａ　昨年度、より上回った 今年度よりInstagramを活用した。公開した６月～２月までの時点で８９％であった。フォロワー以外の方の閲覧があった。	今年度より広報の分掌が新設され、新しことを試みようと実施した。その一つが、SNSを活用した広報活動である。多くのSNSがある中、Instagramを立ち上げ、日々の学校の様子を伝えることで積極的な広報活動を行った。次年度は、今年度より内容をさらに充実させ、部活動や実習内容など本校の魅力や発信していきたい。

（様式２）

重点目標		具体的取組		評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	集計結果	分析（成果と課題）及び改善策など
6	落ち着いた学校生活にする勘所（時を守る・場を清める・礼を正す）を心得る。	①	自ら進んで挨拶を行う	【努力指標】 主体的に元気よく挨拶する生徒を増やす	主体的に挨拶する生徒が Ａ　８０％以上 Ｂ　７０～７９％ Ｃ　６０～６９％ Ｄ　６０％未満	７０％未満の場合は改善を検討する	Ａ　６９％ Ｂ　２８％ Ｃ　３％ Ｄ　０％ （アンケート結果）	元気の良さには学年差があるように感じるが、目を見て挨拶するなど気持ちの伝わる挨拶が増えてきた。教員による玄関指導の機会を利用して、相手に気持ちの良い挨拶を伝えていきたい。
7	教職員の働き方改革の徹底を図る。	①	定期考査の欠点科目保持者をリストアップし、校内ＬＡＮで教員間の情報の共有化を図る。赤点を複数科目保持する生徒については、担任が生徒面談および保護者に早期に連絡するよう教務部から働きかける。	【努力指標】 成績不良者の成績を生徒自ら及び保護者が自覚又は確認する機会を設け、教務部・学年主任･担任･生徒･保護者による面談を行う。	生徒や保護者に対して成績向上のための啓発活動ができた。 Ａ　生徒に著しい変化が見られ、十分有効だった Ｂ　有効だった Ｃ　生徒･保護者ともに現状認識が足りない Ｄ　担任から生徒･保護者への意思疎通が十分なされなかった	Ｃ・Ｄの割合が７０％以上の場合は指導方法を再検討する。	Ａ　１１％ Ｂ　６７％ Ｃ　２２％ Ｄ　０％ （アンケート結果）	Ａ＋Ｂの結果が昨年度と同じく８０％程度であった。引き続き、成績システムの資料を学習指導に活用していけるよう、働きかけていきたい。
		②	補習内容を学校全体が把握できるシステムを構築する。	【努力指標】 工業科別に実施する補習について、学校全体が周知･把握できるシステムを構築する。	各科が補習内容や実施時期を学校全体に周知できた。 Ａ　十分周知された Ｂ　一応周知された Ｃ　あまり周知されなかった Ｄ　周知されなかった	Ｃ・Ｄの割合が４０％以上の場合は指導方法を再検討する。	Ａ　３９％ Ｂ　５７％ Ｃ　４％ Ｄ　０％ （アンケート結果）	Ａ＋Ｂの結果が９６％であり、近年では周知が定着している状況を続けられている。引き続き、グループウエアの掲示板と朝礼での伝達と併せて行っていく。